

令和二年度新入生へ向けた祝辞

日 高 義 博
(学校法人専修大学理事長)

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。また、保護者の方々にも、心からお慶び申し上げます。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の防止のため、誠に残念ながら入学式を開催することができませんでした。晴れて専修大学に入学された皆さん、心から歓迎します。

大学は、どの大学に入ったかではなく、大学で何をしたかが問題です。高校までの偏差値は、一つの評価基準にすぎません。大学での評価は、与えられたことを覚えることではなく、自ら問題を発見し、自ら問題を解決する力があるかです。主体的に勉強し、自分の得意とする分野を伸ばすことによって、将来の展望が見えてきます。

専修大学の歴史は、一八八〇（明治一三）年に創立された専修学校に始まります。幕末の動乱を生き残った創立者たちは、太平洋を渡って、エール大学、ハーバード大学、コロンビア大学、ラトガース大学で約八年の間、近代の学問を修得し、帰国後直ちに専修学校を創立しました。創立者たちは、高等教育によって社会の屋台骨を支える人材を育成するという熱き思いを持って専修学校を創立しました。専修学校は、法律と経済を日本語で教授する学校としてわが国で最初のものでした。明治期の五大法律学校（専修、法政、明治、早稲田、中央）の時代には、「黒門の専修」と呼ばれました。この黒門は、現在、神田キャンパスの一角に復元されています。神田キャンパスの140年記念館（神田一〇号館）にある「黒門ホール」の名称は、専修大学の歴史を顕彰するものでもあります。わが国の高等教育の歴史を刻んできた伝統ある専修大学において勉強することに、自信と誇りを持って日々研鑽してください。

この四月からは、国際コミュニケーション学部がスタートし、経済学部では三学科編成となりました。九月には、創立二四〇周年を迎えます。本学は、創立以来、幾多の苦難にもめげることなく、有為な人材を多数輩出してきました。創立者たちの熱き思いは、建学の精神である「社会に対する報恩奉仕」に集約されています。現在、二一世紀ビジョンとして「社会知性の開発」を掲げ、建学の精神の具現化を図ろうとしています。新入生の皆さんも専修人として建学の精神を担うこととなります。勉学に、スポーツに、自分の得意とする分野において力を発揮されますことを祈念し、私の祝辞といたします。